

1、観測の事前準備

電源を入れます。

本体キーボードの[PROG]を押して電源を入れます。

整準・求心を行います。

本体の円形気泡管でおおよそ整準を行います、

完了後、本体キーボードの[SHIFT]を押した後、[F12]を押して電子気泡管で詳細に整準を行います。

完了後、[F1]で確定します。

電子気泡管で詳細に整準することで自動で2軸補正を行います。

観測前に必ずプリズム定数の設定値を確認して下さい。

本体キーボードの[F9]を押して「プリズム」は「0mm」、

「プリズム定数」は「34.4mm」であるか確認します。

この定数値は、定数0mmのミラーを使用することになります。

確認が完了できましたら、[F1]で確定します。

2、観測のフロー

パネルから「2°0'0"」をタッチするか、矢印キーでカーソルを「2°0'0"」に移動させて[エンター]（赤いボタン）を押します。

「放射対回観測」にカーソルを合わせ[エンター]を押します。

プログラム内でジョブを作成します。

注意！ 対回観測のデータは他のプログラムのデータを混在しないように注意してください。対回専用のジョブを作成して使用してください。

「ジョブ」の行にカーソルを合わせ、エンターを押します。

[F2]を押して「新規」を選択し、名前を入力後に[エンター]を押します。

[F1]を押して「登録」させます。

作成したジョブ名にカーソル合わせ、[F1]を押して選択を確定します。

「放射対回スタート画面」に戻ります。

天候・風力の情報を入力します。

[F5]を押して「天候」、「風力」を各々選択し、[F1]を押して選択を確定します。

対回観測方法を選択します。

[F3]を押して「方法」を選択し、「観測方法」を選択し、観測方法を選択します。

等級を選択した場合は作業規定に準じた観測を行います。

「観測モード」を「全自動」は強制的に自動視準モードになります。

マニュアル視準の場合は「手動」を選択します。

観測方法を設定完了後、

[F1]を押して「確定」させます。

「器械点設定」で「方法」の選択と器械点情報を入力します。

(後視点を0セットする場合)

- ・「方法」は「角度手入力」を選択します。
選択後、**F 5**を押して気温を入力し、気象補正を行います。
F 1を押して確定終了します。
- ・「器械点名」にカーソルを合わせ**エンター**を押します。
F 2押して「新規」を選択し、測点名と座標を入力します。
完了後、**F 1**を押して「登録」します。
次に入力した測点名にカーソルを合わせ、**F 1**を押して「確定」します。
- ・後視点名の情報を入力し、後視点を視準します。
視準完了後、「0セット」**F 4**を押して方向角を0セットします。
後視距離を計測する際は、**F 2**を押して「測距」を行います。
次に、**F 1**を押して「セット」します。
「器械点と方向角の設定を設定しました」と表示されましたら
F 4を押して「OK」を選択します。

(既知後視点を使用する場合)

- ・「方法」は「既知後視点」を選択します。
選択後、**F 5**を押して気温を入力し、気象補正を行います。
F 1を押して確定終了します。
- ・「器械点名」にカーソルを合わせ器械点名を選択します。
選択後、**F 1**を押して「確定」します。
- ・後視点名のを選択して後視点を視準します。
視準完了後、**F 1**「セット」を押して方向角をセットします。
「器械点と方向角の設定を設定しました」と表示されましたら
F 4を押して「OK」を選択します。

前視の観測に入ります。

前視測点名を入力し、**F 1**を押して「オール」を選択します。

全ての正方向を観測終了しましたら、**F 5**を押して「 < > 」を選択します。

この操作で、反方向の観測に切替えます。

前項で「全自動」選択時では、「本当に反転しても良いですか？」の問いに、

F 6を押し「ハイ」を選択することで、以降観測結果の表示まで自動で工程を実施します。

対回を終了後、**F 4**を押して「OK」を選択します。

測定結果の表示がされ、必要であれば、**F 3**を押して「再測」を行います。

最後に、**F 1**を押し「記録」を選択します。

F 4を押して「OK」を選択します。

注意！ 観測結果は必ず、**F 1**を押し「記録」を選択することでデータカードに登録されます。

プログラムの終了および電源切り方

パネルの**ESC**ボタンを押して現在のプログラムを終了させます。

電源を切る場合は、**ESC**ボタンを3、4秒長押しして離すことで、

「器械の電源をオフにしますか?」と表示されます。

F 6を押し「ハイ」を選択します。

3、観測データの転送

(本方式はCAD側にて共通フォーマット/APA方式での通信が可能な野帳取込ソフトが必要です。)

パネルから「プログラム」をタッチするか、矢印キーでカーソルを「プログラム」に移動させて**エンター**(赤いボタン)を押します。

「手簿出力」にカーソルを合わせ**エンター**を押します。

「APA変換」の画面で出力を行うジョブを指定し、**F 1**で確定します。

データカード内のドライブ名:¥Data フォルダ内にファイル出力されます。

「F 6」で終了します。